

辻 啓介・岸田剛二(1972), 但馬扇ノ山の甲虫目録, 兵庫県自然保護協会調査資料, 第1集:
20-48.

上田尚志(1981), 家島群島の昆虫(2), きべりはむし, 9(1): 13.

山本義丸(1958), 兵庫県氷上郡昆虫目録. 氷上の自然, 第3集, Natura 特別号: 84-85.

山本義丸・高橋 匡(1962), 氷上郡昆虫目録追補(第1集): 7-8.

訂正 前回報告分の№33と34の和名が入れ違いですので訂正します。

兵庫県ゼフィルス採卵紀行(2)

勝 屋 潤

3. 朝来郡朝来町～生野町

(1) 1982年10月23日

福崎インタより312号線を北上すると間もなく朝来郡に入る。生野町, 朝来町, 和田山町と好採集地が多い。

市川から円山川に変われば朝来町になる。大きな湖池も多く, 銀山湖, 多々良木湖, 神子畑池等の周りにはブナ, マンサク, ヤマザクラ, ウラジロガシコナラ等ゼフ採卵には絶好の場所である。生野町をうろうろすると一番目につくのはやはりヤマザクラで少ないながらもメスアカはすぐ見つかる。本日の目的はフジミドリである。

銀山湖周辺には沢が多くありブナが多い。ブナの大木は下の方にひこ生えがなく, とても登れそうもない。しかし, ひこ生えを探索に見ていけば一年枝の分岐部より大きな卵が見つかった。実際, フジは大木に登ったとしても上の方に産付されているのは稀で, ほとんどはひこ生えである。従って, 苦勞してわざわざ登ることはない。

しかしやはり道沿の木には少なく, 溪流に沿って斜面に生えるブナの小木が一番効率がよい。京都の産地では尾根のブナ林に多く溪流沿は少なかったが, 本地域では逆のようである。

寄生は比較的少なく, 卵の管理も容易なので採卵した数のほとんどは成虫になる。

斜面はかなりきつく下に人がいないことを確かめてから歩かないと石や岩を落とす危険がある。ブナは背垣町方面に向って点々とあるのでよいポイントを捜せばいい。とは云っても限られた時間内では仲々うまくいかない。フジは通常1卵ずつ, 時々2卵のものがあるが, 恐らく異なる母蝶によって産付されたものと思われる。中には1m程の幼木にも産みつけられている。

午後からはさらに奥に進み川巾1m程度の沢を逆登る。キンキマメザクラがあり、必ずといっていい程メスアカがついている。人為的に植えられたヤマザクラにもついていた。10月はまだサクラ、ブナ共に葉はついており捜しにくいので11月に入ってからのの方がよいようである。しかし11月下旬には雪が降るので採卵期としては1ヶ月程しかないのである。

本日の成果

フジミドリ	36卵(ブナ)
メスアカミドリ	19卵(ヤマザクラ, キンキマメザクラ)

(2) 1983年3月20日

前回とは違う谷を選んで採卵を試みる。

やはり3月は暖かく、晴れていれば汗ばむくらいである。しかし山頂の日陰に入ればまだ雪が残っている。この谷はブナは所々にあるが、フジは非常に少ない。ブナを捜して谷をヤブこぎしているとマンサクの巨木があり上の方で黄色い花をつけている。

試しにこれを登って休眠芽を調べるが、苦勞した割にはウラククロの卵は少ない。

だいたいウラククロという奴は産地に夏いけば恐い程の数が夕刻飛んでいるのに卵を捜せばマンサクが多いことにもよるが成果が上がらない事が多い。やはり幼虫採集が一番効率がよい。マンサクの大木はだめなので幼木を見る。

ゼフィルスの多くは、(アイノ, ヒサマツヤクロミドリは除けば), 大木よりも幼木やひこ生えに好んで産卵するようでありウラククロはこの傾向がかなり強い。

幼木からは次々と卵が見つかった。ある程度採れたので、朝来町に向う。途中、カエデの木が多く帰りにミスジの幼虫を採ろうと決意する。そう決意するともう採卵する気がなくなりミスジの採卵を行なう。11月ならまだ葉が多く残っているが、3月は幼虫のついてる葉とあとはクモの巣にひっかかった葉が残っている程度で非常に楽であった。

本日の成果

フジミドリ	3卵(ブナ)
メスアカミドリ	11卵(ヤマザクラ, キンキマメザクラ)
ウラククロ	32卵(マンサク)
(ミスジ	11幼虫(カエデ))

4. 三田市, 宝塚市～川辺郡猪名川町, 川西市

(1) 1981年11月22日

A.M6:00出発。新神戸トンネルを抜け有馬街道を三田に向う。まず三田市上野でハンノキを調べる。ついていない。次に千刈に向う。途中, 本郷に立寄り, ハンノキを調べる。大木には目もくれず幼木を捜す。本日の第1号の卵はここで得られたミドリシジミである。幼木の為, 枝が細く卵塊は見当らない。1~2卵ずつである。ハンノキ林の群落は効率が悪く, 少し離れた所の低木がよいようで卵は小枝の分岐部や休眠芽の基部に集中的に産まれている。この道を能勢に向う途中宝塚市を通過する。千刈水源池の周りはイボタやトネリコが多い。寄道をしてここで少しウラキンを捜すことにした。トリネコは多いがウラキンの採卵はよほど恵まれないと多くて成果少なしである。

大木の根元のしわやさけ目には卵塊が見つかるが去年の孵化卵であったり, 寄生卵が多く, この年は他の産地でもそうであったが, だめなようである。

ウラキンは大抵卵塊を作るので寄生されれば全滅となる。川に向って斜めに伸びた木では幹の上側(すなわち空に向いた側)に2~3卵ずつ産まれていた。下側の方がよいように思われるが, なぜ上側なのか不思議であったが, こればかりはウラキンに聞いてみないとわからない。寄道に時間を食ってしまい猪名川町についた時はPM3:00を過ぎていた。

今から阿古谷に行くとすぐ日没引分けになるので川西市笹部に行く。

笹部ではイボタを中心にナラガシワやコナラをみることにした。イボタは多いがウラゴマはなく, 本日はウラキン共々, 非常に効率の悪い採卵になった。

50本ぐらい見てやっと1卵塊(9卵)を見つける。帰り際ナラガシワの大木をみる。ダイセン, ウラジロ, アカ, ミズイロで, 予想通りヒロオビはいない。

本日の成果

ミドリシジミ	42卵	(ハンノキ)
ウラキン	14卵	(コバノトネリコ)
ウラゴマダラ	9卵	(イボタ)
ウラジロミドリ	4卵	(ナラガシワ)
ダイセン	18卵	(ナラガシワ)
ミズイロオナガ	4卵	(ナラガシワ, コナラ)
アカ	2卵	(ナラガシワ)

(2) 1983年1月26日

京都から友人が2人泊りに来てヒロオビを採りたいということで上阿古谷～三草山に行く事に

した。この日は前日から大雪で三田から能勢に向う県道の日陰は一面の雪で、車が時々スリップして非常に危ない。ゆっくりと進むので、この道にトネリコの多いのを再発見したような気分になった。三草山。阪神地方でここほど人の訪れる山はない。一昔前は上阿古谷でヒロオビの飛翔に出くわした。しかし今はこらのナラガシワの大木はすべて切られ、アスファルトの道が三草山の頂上附近まで伸びている。伐採と採卵者による無茶苦茶な傷跡が見るに耐えない。それでもこのヒロオビは絶滅する事なく生き長らえている。本来ヒロオビの好みそうなナラガシワの大木はもはやなく中木の上で細々と発生を繰り返している。

本日はまず上阿古谷でのダイセンの採卵を試みた。ヒロオビに比べダイセンの方はナラガシワ、コナラ、クヌギ、アベマキの4種類につくので減るところか逆に増えているような気がする。1ヶ月程前に50卵ほど採ったが、この日もダイセンは豊産で京都の友人には大変喜んでもらった。ダイセンは休眠芽についているが、頂芽ではなく、ひこ生えが効率よく、多い時は1芽に9卵というのもあった。

ダイセンをやっているとミズイロやアカが副産物でとれる。ウラジロの方はナラガシワの休眠芽や小枝、小枝の分岐部に多くは1~2卵が見られ、最も多いのは大木の幹に数十卵の卵塊が見つかるが、例によって例のごとくこういうのは必ずといっていい程大部分が寄生をうけている。副産物はこのくらいにしてヒロオビの採卵の為、三草山へ向う。

年々状況がひどくなっているようである。ヒロオビはナラガシワに登らねばならないので、木に登れない人からはのがれて生き伸びている。もはやここでは数十卵の卵塊などみられず、ほとんど1~2卵ずつであった。

昔から、この三草山に通った人々にとっては、現在のこの姿をみると涙が出る思いであろう。

本日の成果

ダイセン	85卵 (クヌギ, コナラ, アベマキ, ナラガシワ)
ミズイロ	19卵 (ナラガシワ, クヌギ, コナラ)
アカ	4卵 (クヌギ, アベマキ)
ウラナミアカ	2卵 (ナラガシワ, クヌギ)
オオミドリ	3卵 (ナラガシワ)
ウラジロミドリ	75卵 (ナラガシワ)
ヒロオビミドリ	61卵 (ナラガシワ)

(1983-11-23記)